

深い傷痕、遠い回復 福島県沖地震 1 カ月

「最大震度 6 強の福島県沖地震が県内を襲ってから 4 月 16 日で 1 カ月となった。東日本大震災以降も大きな災害が続き、住民や地域が重ねて受けるダメージは深い。回復の見通しはまだ立っていない。経済活動に深刻な影響が出ているのが、相馬市の松川浦漁港の周辺だ。24 軒の旅館やホテルはこの 1 カ月、すべて営業を停止している。東日本大震災から復興しかけた矢先に、台風 19 号 (2019 年)、新型コロナと続き、昨年、今年と立て続けに震度 6 強の地震に見舞われた。相馬商工会議所がまとめた商工業者の被害額は 68 億円。このなかには被害額が確定できていない旅館やホテルは含まれておらず、今後さらに積み上がる。事業者への聞き取り調査では「このままでは廃業が濃厚」(旅館)、「これまでの地震で土台がやられ少しずつ傾いている。次回の大きな地震に耐えられるか少々心配」(小売店)などの意見が集まった。

松川浦で丸三旅館を経営する松川浦観光旅館組合の組合長、管野正三さん (61) は国の財政支援に期待する。多くの旅館が地震保険などに入っているが、保険金だけでは足りないという。「昨年の地震でうちは『一部損壊』だったから、修復費用の 5%しか保険金が支払われなかった。国のグループ補助金で建物を修復できれば、保険金は壊れた調度品や割れた食器の買い替えに回せる」松川浦漁港では、海水をいけすにくみ上げるポンプが故障したままだ。このためヒラメやタコなどを生きたまま市場に送る「活魚」事業が停滞している。「小型漁船の漁では 4 割が活魚に頼っている。活魚は単価が高いだけに、売り上げへの影響は甚大だ」。相馬双葉漁協の立谷寛治組合長はそう話す。

福島県相馬港湾建設事務所によると、岸壁にひび割れや段差発生などの被害が出ている漁港は、釣師浜 (新地町)、松川浦 (相馬市)、真野川 (南相馬市)、請戸 (浪江町) の 4 地点、計 46 カ所に上り、被害額は計 24 億円。県の担当者は「昨年の地震より今回の方が被害が大きい」と言う。4 漁港と相馬港の復旧には、国の補助を受ける手続きに時間が必要で、工事着手は早くて 9 月ごろになる見込みだ。(笠井哲也、福地慶太郎、大月規義) (「朝日新聞」2022 年 4 月 17 日付け)

4 月 15 日午前 11 時現在の県のまとめでは、今回の地震で男性 1 人が亡くなり、9 人が重傷、92 人が軽傷を負った。また、14 世帯 19 人が、相馬市内の体育館で避難生活を送っている。住宅は、相馬市や新地町、福島市など浜通りや中通りを中心に計 73 棟が全壊し、999 棟が半壊した。一部破損は 1 万 512 棟で、会津地方まで県内全域におよぶ。県災害対策課によると、市町村による調査はまだ続いており、被害はさらに増える見通しだ。

道路は最大 22 カ所が全面通行止めとなり、今も南相馬市や相馬市の県道など 4 カ所で解消に至っていない。鉄道は、阿武隈急行の福島―梁川間で 5 月末までの運休が見込まれ、代替バスの運行が続いている。



【地震でガタガタになった岸壁（相馬市松川浦漁港）】



【屋根が破損し、ブルーシートで覆われた家（相馬市松川浦）】